

XII. 試合

- 試合前 当スクールの子供たちはオットリとしてせいか、試合前の集中力にかける面があります。如何にもり立ててやるかはコーチの責任でもあります。学年・チームの状況によりますが工夫をしてください。
* ウオークライを取り上げてみましたが県協会から遠慮するようにと言われてしまいました。
- 試合中 タッチジャッジとなる人は、一切、子供たちへの声かけはやめてください。コーチも声かけはしないでください。効果はありません。
いいプレー、良くないプレーを記録し、次の練習に参考になるようにしてください。負けた試合の方が得ることが多いのです。
父母の方々は大いに声援をしてください。品の悪い言葉はつつしんで。
- 試合後 ミーティングは短めにしてください。特に負けた試合では長いミーティングになりがちです。子供たちはわかっているのです。
いいプレーをほめてやることで十分ではないでしょうか。

XIII. ペナルティへの対応

重度な反則をしたときに与えられるのがペナルティキックです。与えられれば大きなチャンスです。逆に取られればピンチとなります。特にゴール前では。俊敏な動きが必要となります。

<コーチの目>

* 取られたとき

素早く戻る ポイントから5メートル下がります。
下がらなければ、再度、ノット5メートルで反則を取られます。

目を離さない 下がる時にボールから目を離してはいけません。
ボールを見ながら下がるのです。
相手がボールに足を当てたら5メートルは解消です。
すぐ前に出て相手を止めます。

穴を空けない 平均に広がらないとギャップを突かれます。

* 取ったときは

サインを使う BKにいくかに見せてFWが動く、逆の場合も。
サインが必要です。ダミープレーもいいでしょう。
麻生システムもいいでしょう。

穴を見つける 隙間を見てそこに突っ込むのです。スピードが命。
なにも相手の多くいるところに行く必要はありません。

Qスタートも

XIV. 危険なプレー

ラグビーは紳士のスポーツであり、フェアプレーが要求されます。

この精神に反する行為はしてはいけません。

また、レフリーは絶対的存在であり、クレームをつけることは許されません。

レフリーが判定を間違えることはあります。それでもダメなのです。

以下に危険なプレーを列挙します。絶対にしないよう指導してください。

殴ってはいけません。踏みつけてはいけません。蹴ってはいけません。

足で引っかけてはいけません。

ハイタックル 相手の肩の線より上にタックルしてはいけません。

ステイファームタックル 相手のボールを落とそうとして腕を払ってはいけません。

スコップ 空中にいるプレーヤーにタックルしてはいけません。

キックオフ、ラインアウトで発生します。

ノーボールタックル ボールを持っていないプレーヤーにタックルしてはいけません。

アーリータックル 早すぎるタックルをしてはいけません。ノーボールタックルです。見込みでタックルすることです。

レイトタックル 遅すぎるタックルをしてはいけません。

キッカーに対して行うことが多いのです。

オブストラクション 相手のタックルコースに入ることなどです。

シザースプレー、ダミープレーなどで発生します。

ほかにもありますがミニでは以上のことに注意すればいいでしょう。

危険なプレーはすべて相手ボールのペナルティとなりますが場合によってはシンビンまたは退場となります。

XV. タッチジャッジ

原則としてタッチジャッジはレフリーの資格を持っている人が望ましいのですがミニではコーチがやっても良いのです。しかし、ともすればタッチジャッジの立場を忘れ、大声でコーチをしているケースも見られます。

タッチジャッジはレフリーの一員であり、ゲームの進行に携わっているのですから必要以外の言葉を出してはいけません。

タッチジャッジは絶対にボールに触れないでください。

* 人がいなければ何時やらされるかわかりません。必ず読んでください。

XV-1-A. 服装など

ジャージの色は、対戦する両チームと対照的なものを着用してください。

自チームの色はわかりますね。相手チームの色は公表されています。

わからなければ先輩レフリーに確認してください。

時計も着用し、試合開始とともにセットしてください。

レフリーの時計が故障する、押し忘れることがあります。

XV-1-B. トス

ミニでは15分前、または前の試合のハーフタイムにトスが行われます。

自チーム・キャプテンと同行し、本部席でトスを行います。

競技委員、CS委員から注意事項が伝えられる場合がありますから、自チームに帰ったら子供たちに伝えます。

* レフリー・相手チームタッチジャッジ・相手チームキャプテンなどと握手し挨拶をしておきます。試合終了後も挨拶をしておきましょう。

XV-2. セットプレー

セットプレーではそれぞれ立つ位置が異なりますので注意してください。

XV-2-A. キックオフ

自チームの左サイドがタッチジャッジサイドです。

オープン側ではボールの飛んできそうな位置を予測してその位置に立ちます。

ブラインド側では5メートルラインに立ち、デフェンス側の子供の位置を制御します。出ていれば“さがって”と声をかけてください。

XV－2－B. スクラム

デフェンス側のBKのオフサイドラインをフラッグを持っていないほうの手を水平に上げ、指示します。ここでも出ていれば声をかけてやります。

XV－2－C. ラインアウト

ボールがタッチに出たらすぐフラッグを上げます。上げながらタッチの地点に行きます。上げるのが先を忘れずに。

タッチポイントを示し、レフリー、スローワーが確認したらデフェンス側のオフサイドラインに立ち、手を上げて示します。出ていれば“下がって”と声をかけます。投入側でないタッチジャッジは最初からオフサイドラインに立ち、制御します。

XV－3－D. ペナルティキック（フリーキック）

オフサイドラインに立ち、手をあげます。出ていれば声をかけます。

- * セットスクラムのBKのオフサイドラインはスクラムの最後方から3メートルです。
- * ラインアウトのBKのオフサイドラインはラインオブタッチ（タッチポイントからゴールラインに平行な線）から5メートルです。
- * ペナルティのオフサイドラインはポイントから5メートルです。
- * ゴールラインから5メートル以内では如何なるセットプレーも出来ません。

XV－3. 旗をあげる

フラッグを上げるという行為は重要なことです。3メートル・5メートルを示すとき、絶対にフラッグは上げないでください。メッセージが違います。

XV－3－A. ゴールキック

ゴールキックのときはゴールポストの下または後方に立ち、ボールがクロスバーを越え、ゴールポストの間を通ったときはフラッグを上げてゴールを合図します。

XV－3－B. タッチ・ゴールライン際

タッチになったときはフラッグを上げますが、ゴールラインとタッチの境目のときはトライかタッチを見極め、レフリーから確認を求められたら的確に判定を報告します。トライのときはフラッグでインゴールを示します。コーナーフラッグにボールを持った選手が触れたらタッチです。

XV－3－C. ダイレクトタッチ

タッチになったときはフラッグを上げますが、ダイレクトタッチになったときは頭上にフラッグともう一方の手をクロスさせることでダイレクトタッチであることを示します。

XV－3－D. 危険なプレー

危険なプレー、不行跡なプレーがあったときはフラッグを水平に、タッチラインと直角の方向に上げます。レフリーへの合図です。

プレーが続行されればそのまま続けます。

プレーが停止すればフィールド内に入りレフリーと協議します。